

事務事業名	百田保育所保育活動費		所属部局	保健福祉部		単位番号	5146			
	☐ 実施計画事業		所属課室	百田保育所		課長名	保坂和美			
			所属担当			担当者名	保坂和美			
基本政策	基本計画体系	IV 快適で心のかよいあう都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目
政策		17 社会福祉の充実	事業区分	01	一般	03	02	04	05	06
施策	28 児童福祉の充実			☐ 国の制度による義務的事業	☐ 施設等維持管理事業					
				☐ 県の制度による義務的事業	☐ 補助金交付事業					
				☐ 市の制度による義務的事業	☒ その他の事業					
			☐ 義務化されている協議会等の負担金							
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度) 期間限定複数年度 (年度)		法令根拠							
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載		事業費の主な内訳 (22年度)							
	保育所嘱託医報償、講師謝礼、職員旅費、教材等消耗品、世代間交流事業食料費、保育証書等印刷代、教材・器具等修理代、給食賄い費、児童ぎょう虫等検査料、職員検便検査料、バス借上料、職員研修負担金 児童保育に関わる運営経費 児童数の増加、減少が影響する。		項目(細節) 金額(千円) 項目(細節) 金額(千円)							
			報償費 235 負担金・補助及び交付金 53							
			旅費 13 備品購入費 102							
			需用費 6,084							
			役務費 401							
			使用料及び賃借料 69 計 6,957							

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	予算の執行 児童に関する各種事業の執行
23年度活動予定	予算の執行 児童に関する各種事業の執行
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
① 入所児童 ② 保護者	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
児童が健やかに育つ	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
安心して子育てができる環境づくり	

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 予算額	円
イ 保護者が係る事業数	件
ウ	
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 児童数	人
イ	
ウ	
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 4月1日 新入所児童数	人
イ 4月1日 在所児童数	人
ウ 卒園児数	人
⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 保護者への満足度アンケート	%
イ	

(2) 事業費・指標の推移

		単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	9,172	6,957	7,553	7,069	7,177	7,177
	事業費計 (A)		千円	9,172	6,957	7,553	7,069	7,177	7,177
	人件費	正規職員従事人数	人	8	8	8	8	8	8
		延べ業務時間	時間	15,360	15,360	15,360	15,360	15,360	15,360
		人件費計 (B)	千円	68,521	68,521	60,856	60,856	60,856	60,856
	(A)+(B)		千円	77,693	75,478	68,409	67,925	68,033	68,033
活動指標		ア 円	10,219,000.0	7,576,000.0	7,177,000.0	7,177,000.0	7,177,000.0	7,177,000.0	
		イ 件							
対象指標		ア 人	188.0	172.0	174.0	163.0	174.0	174.0	174.0
		イ 人							
		ウ 人							
成果指標	ア 人	48.0	32.0	39.0	39.0	39.0	39.0	39.0	39.0
	イ 人		140.0	135.0	135.0	135.0	135.0	135.0	135.0
		ウ 人		45.0	45.0	45.0	45.0	45.0	45.0
上位成果指標		ア %							
		イ							

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	白根百田保育所は、百田第1保育所と百田第2保育所が合併し、平成2年定員150人で開園しました。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	入所児童も多く在籍し3歳未満児が年々多くなり、遊戯室を年長児の部屋として使用している状況。乳幼児の入所希望の増加が見込まれる。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	保幼小の連携の不可欠である事をふまえ、児童や教諭との交流会・研究会の開催の試行、良かったとの自己評価から今年度も継続していく。未満児途中入所希望があるが、受け入れができない状況あり。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☐ 取り組みしている ⇒【内容!】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由!】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	・職員給与費を本課に一括計上し、事務の効率化を図った。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	・事務消耗品については、効果的・効率的な運用を図った。

事務事業名	百田保育所保育活動費	所属部	保健福祉部	所属課	百田保育所
-------	------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 児童福祉の充実
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 未来を担う児童に対して、公共性のある保育サービスの提供は今後も必要
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 事業の必要性は高く今後も多くのニーズに支えられた事業となると思われる。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 建物の形状や地域的なものから0歳から2歳専門保育所の設立(人件費・設備費の合理的な運用が可能)
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入！) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 設備・施設の大きさから無理である ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 保護者が安心して勤務する事が不可能になる ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 保育に欠ける児童の保育を行なっているため
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 印刷代や光熱費・燃料費のコスト削減 児童が健やかに育つためには削減の余地はありません。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 朝7時30分から夜7時までの開所のため、11時間30分保育展開の為人員確保は必要です
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 入所児童には公正公平です。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	児童福祉をより充実して行なう必要がある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table>				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について		※ 廃止・休止の場合は記入不要																						
①延長保育利用料の見直し(定額ではなく、回数に比例する)		(5) 事務事業優先度評価結果																						
②消耗品の統一発注でコスト削減																								
③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		成果優先度評価結果																						
①特色のある保育所を目指す(子どもの体や心の育ち、保護者支援を特に視野に入れた保育内容の充実)		⑧																						
②																								
③		コスト削減優先度評価結果																						
		⑥																						